

# 令和6年度奄美大島三太郎線周辺における

## 夜間利用適正化連絡会議

日時：2025年3月10日（月） 10:00～12:00

場所：奄美市役所5階大会議室

### 次第

#### 1. 開会挨拶

#### 2. 議事

- (1) 三太郎線周辺における夜間利用ルール運用開始から3年間の運用状況について
- (2) 三太郎線周辺以外の路線でのナイトツアーの利用状況について
- (3) その他

#### 3. 閉会挨拶

### 資料一覧

#### 次第・出席者名簿

資料1-1：三太郎線周辺における夜間利用ルール運用開始から3年間の運用状況（ルール試行後～令和6年10月末）（スライド）

資料1-2：住用町住民優先枠と1枠2台利用に関する利用ルールの運用に関して令和6年度の運用状況を踏まえた令和7年度の方針

資料2：三太郎線周辺以外の路線でのナイトツアーの利用状況について

資料3：令和6年度奄美大島三太郎線周辺における夜間利用適正化連絡会議の検討事項等に関する意見照会の結果と対応

資料4：シンポジウムの開催報告

資料5：三太郎利用適正化連絡会議構成機関案

# 三太郎線周辺における夜間利用ルール運用開始から 3年間の運用状況

(ルール運用後～令和6年10月末)

令和7年3月

奄美大島三太郎線周辺における夜間利用適正化連絡会議 事務局

1

## 報告内容

### (1) 3年間の利用状況及び評価

- 1) 調査概要
- 2) 調査結果
  - 2)-1 3年間の利用状況
  - 2)-2 モニタリング指標とルール運用3年目の状況
    - ①遺産価値の保全
    - ②質の高い利用体験
    - ③地域社会

### (2) 住用町住民優先枠と1枠2台までの利用の運用状況

- 1) ルールの内容
- 2) 設定期間・調査概要
- 3) 調査結果
  - 3)-1 住民優先枠
  - 3)-2 1枠2台での利用

2

# (1) 3年間の利用状況及び評価

3

## 1) 調査概要

### 調査項目

### 調査手法

#### 1. 3年間の利用状況

- 通行台数
- 未予約率
- 無断キャンセル件数
- 石原栄間線・スタル俣線利用台数

車番認識システム  
予約サイトの予約情報  
自動撮影カメラ  
車両カウンター

#### 2. モニタリング指標に基づく評価

##### (1) 遺産価値の保全

- 1-1. アマミノクロウサギのロードキル発生数
- 1-2. アマミノクロウサギの出現頭数
- 1-3. 動物の出現種数

アマミノクロウサギの交通事故による死体件数  
(環境省データ)

三太郎線・スタル俣線・石原栄間線の自動撮影カメラ

環境省が年に2回実施している夜間のルートセンサス

##### (2) 質の高い利用体験

- 2-1. 「とても満足」の割合
- 2-2. 「とても不満」の割合
- 2-3. 未予約率

利用者アンケート (回答数810件)

予約サイトの予約情報、車番認識システム、  
自動撮影カメラ

##### (3) 地域社会

- 3-1. 自然体験・学習や保全活動の実施

実施回数

4

# 1) 調査概要

市道三太郎線におけるカメラ等の位置図



## 2) 調査結果

### 2)-1 3年間の利用状況

#### 三太郎線の利用状況

(2021.10～2024.10)

- 総利用台数は3年目で減少
- 未予約台数は横ばい(未予約率は微増)
- 月別の最大利用台数は昨年度同程度(ルール運用前より減少)

	1年目	2年目	3年目	総計
総利用台数(台)	3,833	3,805	<b>3,535</b>	11,173
予約件数(件)	3,751	3,681	3,380	10,812
予約利用(台)	3,361	3,346	3,076	9,783
(割合)	87.7%	87.9%	87.0%	87.6%
未予約利用(台)	472	459	<b>459</b>	1,390
(割合)	12.3%	12.1%	13.0%	12.4%
無断キャンセル	390	335	304	1,029
(割合)	10.4%	9.1%	9.0%	9.5%



※ルール運用前は交通量計測装置、ルール運用後は車番認識システム、予約サイトの予約情報及び自動撮影カメラより集計、学術利用は除く

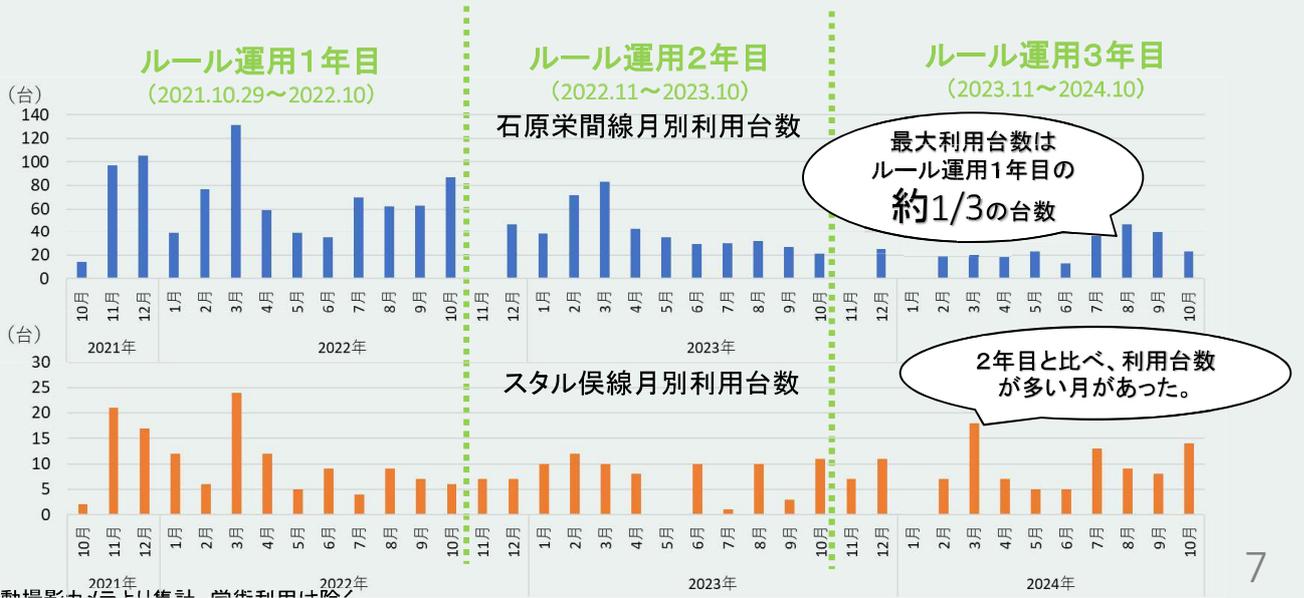
2) 調査結果

# 2)-1 3年間の利用状況

## 石原栄間線・スタル俣線の利用状況 (2021.10~2024.10)

- 石原栄間線の利用は3年間で大きく減少傾向
- スタル俣線は、3年目は利用が多い月が見られた。

	1年目	2年目	3年目	総計
石原栄間線	878	457	275	1,610
(1日平均)	2.4	1.3	0.8	1.5
スタル俣線	134	89	114	337
(1日平均)	0.4	0.2	0.3	0.3



※自動撮影カメラより集計、学術利用は除く

2) 調査結果

# 2)-2 モニタリング指標とルール運用3年目の状況



## 奄美市道三太郎線周辺における夜間利用適正化ビジョン(令和6年2月作成)

### <モニタリング>

利用者が奄美らしく素晴らしい自然体験を持続的に得ることが出来るよう、利用影響のモニタリング等に基づき順応的な管理を行う。モニタリング指標は、遺産価値の保全、質の高い利用体験(満足度等)、地域社会の3つの観点から設定する。

※1 基準値は「1 遺産価値の保全」の1-1および「2 質の高い利用体験」については、ルール運用開始から1年目の最もしくは平均値を基準値とした。「1 遺産価値の保全」における1-2①と1-3はルール運用前3年間の三太郎線・石原栄間線での中央値、1-2②はルール運用開始年度の値を基準とした。  
 ※2 現況値は利用ルールの運用開始月を起点とした年総値(11月~10月)。ただし1-2及び1-3はその前年度(4月~3月)の値。

モニタリング指標	基準値#1	現況値#2	現況値の評価基準	備考
<b>1 遺産価値の保全</b>				
1-1、アマミノクロウサギのロードキル発生数	年間1頭		【良好】交通事故が確認されていない。 【注意】基準値と同程度。 【懸念】基準値より多い。	環境省奄美野生物保護センターのデータに基づく。交通事故が死因と判断ができないものは計上しない。
1-2、アマミノクロウサギの出現頭数	①6.9頭 ②120		【良好】基準値より多く、かつ前年値より多い。 【注意】基準値より多いが、前年値より少ない。 【懸念】基準値より少ない。 【良好】基準値を上回る(120より多い) 【注意】80~120 【懸念】基準値の30%以上減(80より少ない)	環境省が年に2回実施している夜間のルートセンサステータに基づく。 三太郎線・スタル俣線・石原栄間線のカメラデータ(有効カメラ目×100)
1-3、動物の出現種数	5種		【良好】基準値より多く、かつ前年値より多い。 【注意】基準値より多いが、前年値より少ない。 【懸念】基準値より少ない。	環境省が年に2回実施している夜間のルートセンサステータに基づく。
<b>2 質の高い利用体験</b>				
2-1、「とても満足」の割合	35.8%		【良好】基準値より多く、かつ前年値より多い。 【注意】基準値より多いが、前年値より少ない。 【懸念】基準値より少ない。	利用者アンケートにおける「総合的な満足度」のデータに基づく。
2-2、「とても不満」の割合	7.3%		【良好】基準値より少なく、かつ前年値より少ない。 【注意】基準値より少ないが、前年値より多い。 【懸念】基準値より多い。	
2-3、未予約率	12.3%		【良好】基準値より少なく、かつ前年値より少ない。 【注意】基準値より少ないが、前年値より多い。 【懸念】基準値より多い。	
<b>3 地域社会</b>				
3-1、自然体験・学習や保全活動の実施	年1回		【良好】基準値より多い(2回以上) 【注意】基準値と同じ(1回) 【懸念】基準値より少ない(0回)	小中学校の自然体験学習等との連携や地域での保全活動を想定。
3-2、三太郎線周辺の自然環境への愛着	今後設定	今後設定	今後設定	住用町在住者の三太郎線の予約利用数。 指標3-1の活動等への住用町在住者の参加人数。

2) 調査結果

## 2)-2 モニタリング指標とルール運用3年目の状況

### モニタリング指標と現況値(1)

	モニタリング指標	基準値※1	ルール運用開始からの年数※2		現況値の評価
			2年目	3年目	
1	<b>遺産価値の保全</b>				
	1-1. アマミノクロウサギのロードキル発生数	年間 <b>1頭</b>	年間 <b>4頭</b> ※3	年間 <b>3頭</b>	【良好】交通事故が確認されていない。 【注意】基準値と同程度。 【懸念】基準値より多い。
	1-2. アマミノクロウサギの出現頭数	① <b>6.9頭</b>	① <b>8.5頭</b>	① <b>11頭</b>	【良好】基準値より多く、かつ前年値より多い。 【注意】基準値より多いが、前年値より少ない。 【懸念】基準値より少ない。
		② <b>120</b>	② <b>118.3</b>	② <b>65.8</b>	【良好】基準値を上回る(120より多い) 【注意】80~120 【懸念】基準値の30%以上減(80より少ない)
	1-3. 動物の出現種数	<b>5種</b>	<b>7種</b>	<b>5種</b>	【良好】基準値より多く、かつ前年値より多い。 【注意】基準値より多いが、前年値より少ない。 【懸念】基準値より少ない。

※1 1-1：ルール運用開始から1年目の値、1-2①及び1-3：開始前3年間の三太郎線・石原栄間線での中央値、1-2②ルール運用開始年度の撮影率

※2 1-1：ルール運用開始から3年目の値、1-2及び1-3：3年目の値は2024年度の平均値もしくは撮影率

※3 過去の連絡会議において、2年目のロードキル発生数を「3頭」としていたが、その後の死因解明により「4頭」に修正した。

9

2) 調査結果

## 2)-2 モニタリング指標とルール運用3年目の状況

### モニタリング指標と現況値(2)

	モニタリング指標	基準値※1	ルール運用開始からの年数		現況値の評価
			2年目	3年目	
2	<b>質の高い利用体験</b>				
	2-1. 「とても満足」の割合	<b>36.4%</b>	<b>44.5%</b>	<b>52.3%</b>	【良好】基準値より多く、かつ前年値より多い。 【注意】基準値より多いが、前年値より少ない。 【懸念】基準値より少ない。
	2-2. 「とても不満」の割合	<b>6.7%</b>	<b>3.3%</b>	<b>2.8%</b>	【良好】基準値より少なく、かつ前年値より少ない。 【注意】基準値より少ないが、前年値より多い。 【懸念】基準値より多い。
	2-3. 未予約率	<b>12.3%</b>	<b>12.1%</b>	<b>13.0%</b>	【良好】基準値より少なく、かつ前年値より少ない。 【注意】基準値より少ないが、前年値より多い。 【懸念】基準値より多い。
3	<b>地域社会</b>				
	3-1. 自然体験・学習や保全活動の実施	年間 <b>1回</b>	<b>3回</b>	<b>5回</b>	【良好】基準値より多い(2回以上) 【注意】基準値と同じ 【懸念】基準値より少ない

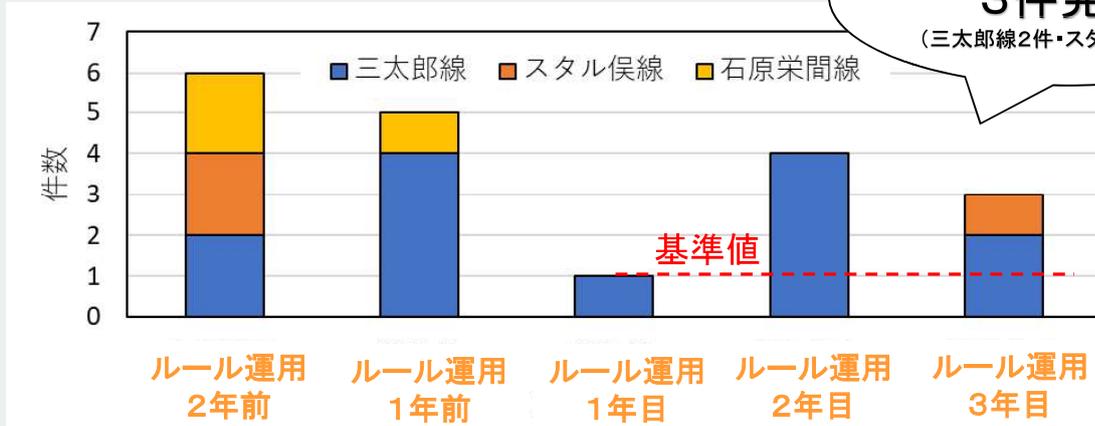
※1 ルール運用開始から1年目の平均値

# ① 遺産産価値の保全

## 指標1-1: アマミノクロウサギのロードキル件数

(環境省奄美野生生物保護センター収集データより)

**【懸念】基準値より多い。**



奄美大島全域での交通事故件数の推移



# ① 遺産産価値の保全

## 指標1-2: アマミノクロウサギの出現頭数

年度単位で評価

(環境省実施の調査結果より)

① ルートセンサスによる確認頻度

**【良好】基準値より多く、かつ前年値より多い。**

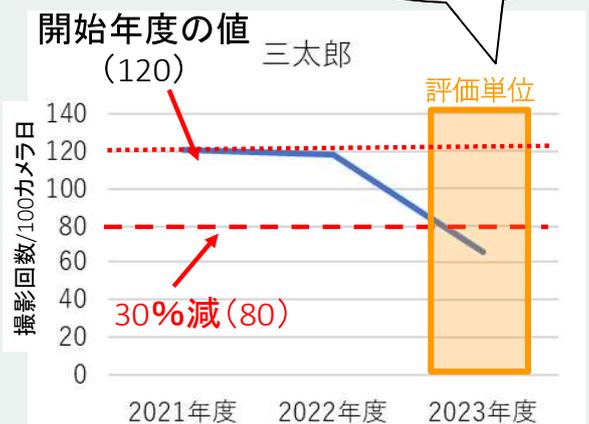
3年目の平均値  
11頭



② カメラデータによる撮影率

**【懸念】基準値の30%以上減(80より少ない)**

3年目の撮影率  
65.8



※ただし、島内では高い水準

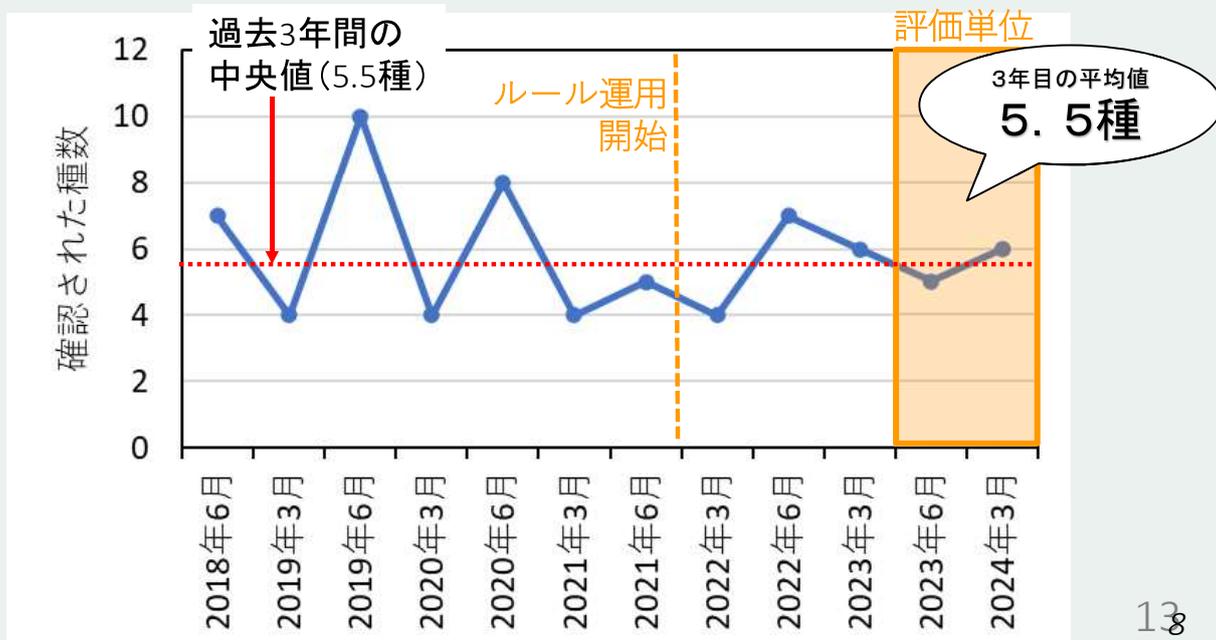
# ① 遺産産価値の保全

## 指標1-3: 動物の出現種数

年度単位で評価

ルートセンサスによる確認種数(環境省実施の調査結果より)

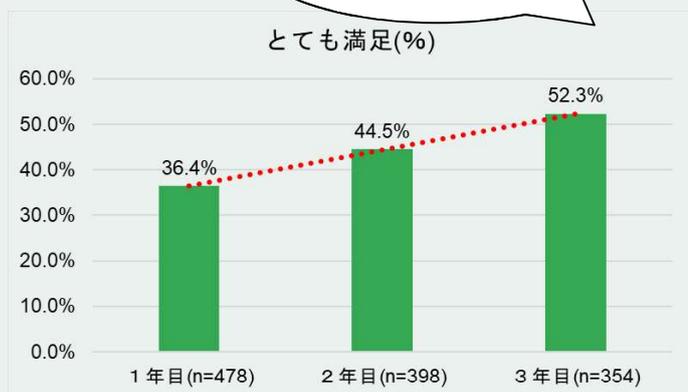
**【注意】基準値と同じだが、前年度より少ない**



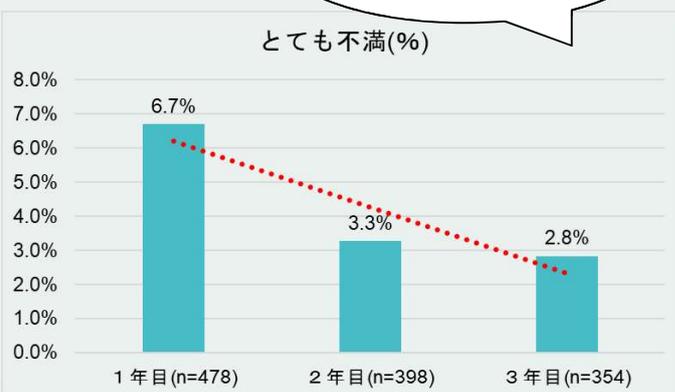
# ② 質の高い利用体験

**【良好】**とても満足: 基準値※より多く、かつ前年値より多い。  
 とても不満: 基準値※より少なく、かつ前年値より少ない。

ルール運用2年目より約7.8%増加



ルール運用2年目より約0.5%減少



※ ルール運用開始から1年目の平均値

## ② 質の高い利用体験

### 満足度とその他項目との関連

機械学習の手法(SHAP)を使って、総合的な満足度に与える要因を分析

#### 【不満の要因】

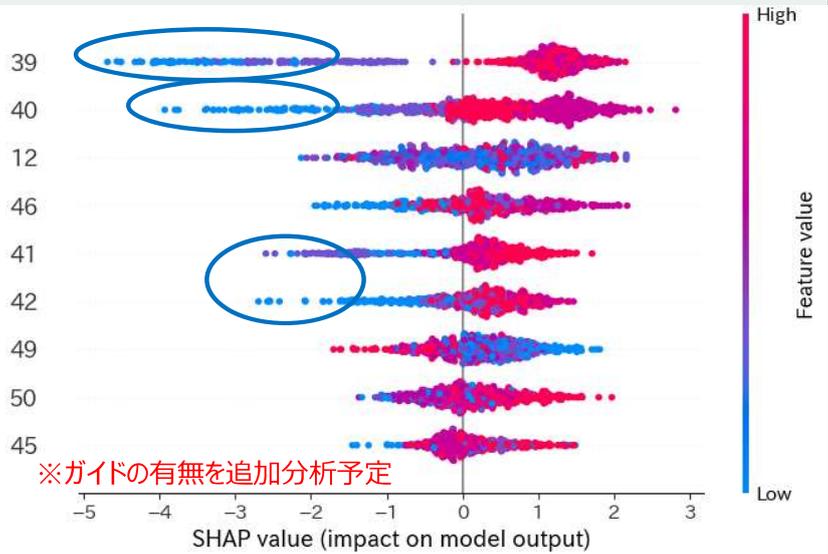
生き物がたくさん見られなかったり、じっくり見られないと総合満足度に決定的な悪影響を与えるほか、安心して通行できなかったり、混雑を感じた場合でも悪影響が大きい

#### 【満足の要因】

どれか1つの要因が突出しているのではなく、複数の要因が複合的に作用

※グラフの見方

横軸は「総合的満足度」への貢献度 (-5は不満への影響大) プロットの色は各要素のアンケートの回答 (#42「混雑感」の赤は「空いていた」、青は「混雑していた」)



#39:生き物がたくさん見られた (数値が大きいほど満足)

#40:じっくり観察できた (数値が大きいほど満足)

#12:クワガタ観察頭数

#46:車遭遇感想 (数値が小さいほど嫌な思いをした)

#41:安心安全に通行できた (数値が大きいほど満足)

#42:混雑感 (数値が小さいほど混雑を感じた)

#49:観察種数

#50:ルールの理解 (数値が低いほど理解度が低い)

#45:予約方法 (数値が小さいほど不便を感じた)

## ② 質の高い利用体験

【懸念】基準値より多い。

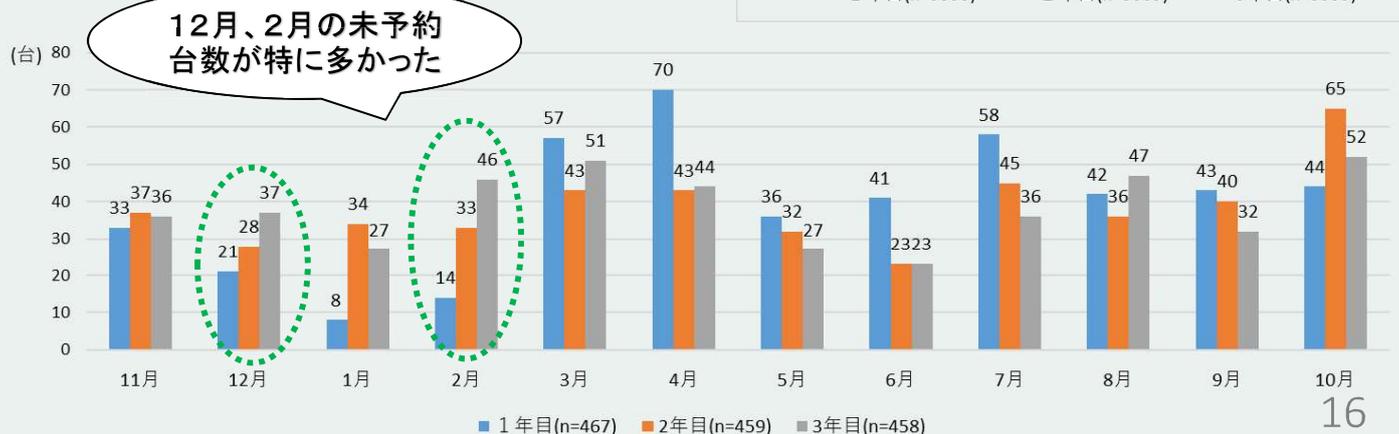
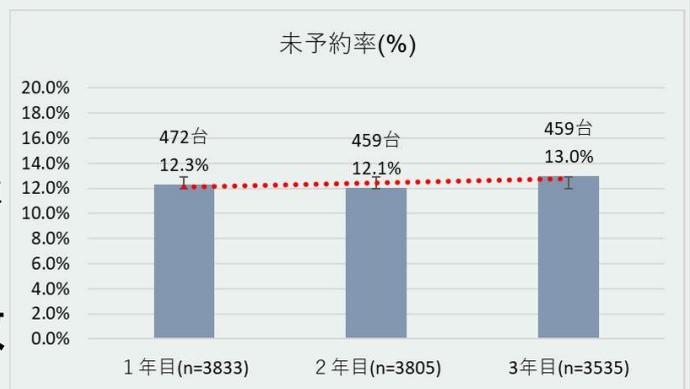
「未予約率」の割合

:基準値※より約1%増加

※ ルール運用開始から1年目の平均値

「未予約台数」

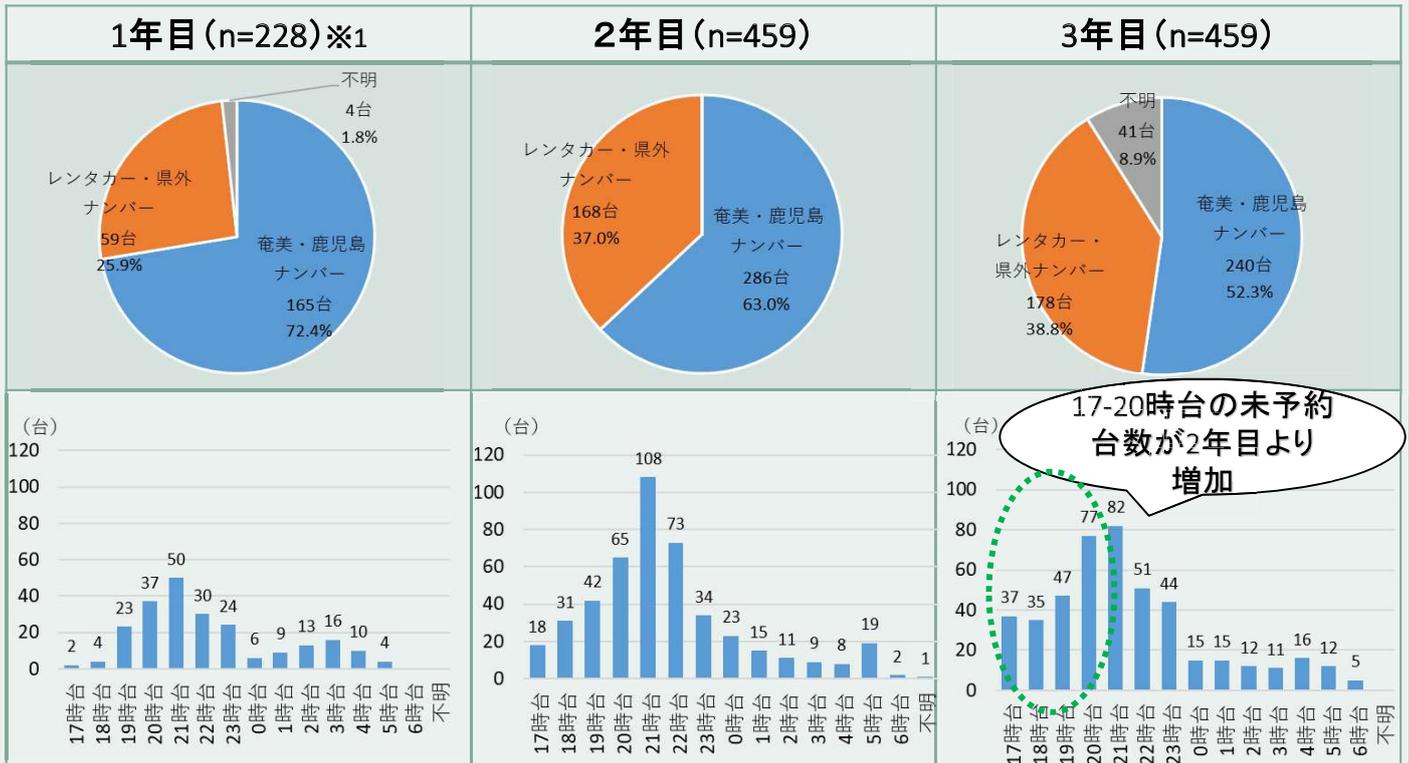
:1年目より減少、2年目と同数



## ② 質の高い利用体験

### 未予約利用の属性・時間帯

減少傾向だが、半数以上は奄美・鹿児島ナンバー



※1 ルール運用開始から1年目は、6月以降の利用状況を示す。  
 ※2 車番認識システム、予約サイトの予約情報より集計

## ② 質の高い利用体験

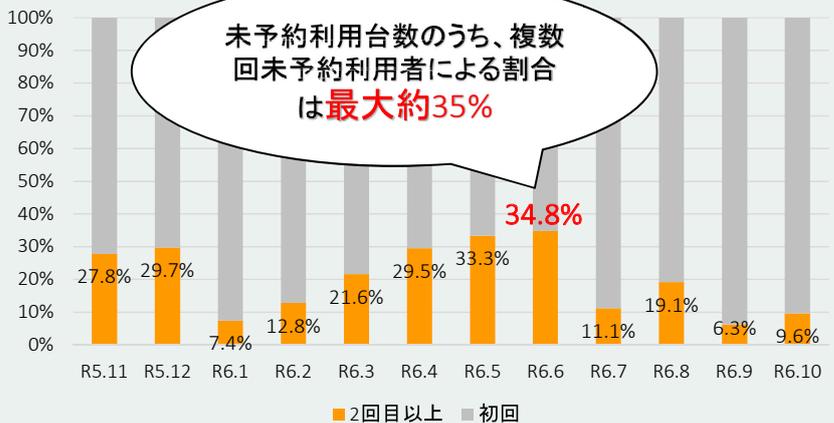
複数回未予約利用者が占める割合が一定程度確認された。

最大で8回未予約利用

複数回未予約利用者による未予約台数は、**90台** (全体※2の約20%)

ルール運用3年目における複数回未予約の状況

未予約回数※1	人数	回数×人数
8回	1	8
5回	3	15
4回	2	8
3回	5	15
2回	22	44
合計	33	90



※1 2023年11月～2024年10月の期間中の未予約利用回数を集計  
 ※2 ルール運用3年目の未予約台数  
 ※3 車番認識システム、予約サイトの予約情報及び自動撮影カメラより集計

## ② 質の高い利用体験(総括)

### 質の高い利用体験に関する指標の評価

「とても満足」、「とても不満」の割合: **【良好】**

未予約率: **【懸念】**

#### 評価

##### 【満足度とその他項目との関連性】

- ・ 生き物をたくさん・じっくり観察できたり、安心して通行できたりといった**複数の要素が複合的に作用して、ナイトツアーへの総合的な満足感に繋がっている**と考えられる。
- ・ 逆に、総合的に「不満」と感じた人はたくさん・じっくり観察できなかつたり、混雑、他の車と遭遇して嫌な思いをした等、**どれか1つでも不満を感じる要素があるとナイトツアー全体への不満感に直結する**と考えられる。

##### 【未予約率の評価】

- ・ 複数回未予約利用者による利用が一定程度生じている。
- ・ 奄美・鹿児島ナンバーの未予約率が半数程度。

#### 対応の方向性

未予約利用については、引き続き周知、モニタリングを行う。

19

## ③ 地域社会

### 指標3-1: 自然体験・学習や保全活動の実施

**【良好】基準値より多い(2回以上)**

#### 【今年度の活動】開催回数5回

活動	主催者(実施者)
三太郎線ナイトツアー体験(住用小学校)	ナイトツアー協会
三太郎線ナイトツアー体験(東城小学校)	ナイトツアー協会
三太郎線における外来種駆除(セイタカアワダチソウ)	ナイトツアー協会
三太郎線における外来種駆除(キダチチョウセンアサガオ)	奄美市住用総合支所
「三太郎峠歩こう会」の開催	奄美市住用総合支所

#### 対応の方向性

引き続き、ガイド、行政、地域による地域社会に貢献する活動の実施に努める。

20

## (2) 住用町住民優先枠と1枠2台までの利用の運用状況

21

### 1) ルールの内容

運用開始時期: 令和6年4月～

対象期間: ゴールデンウィーク、夏休み、年末年始

#### ① 住用町住民優先枠の設定

##### 【対象範囲】

住用町住民（ガイド事業者を除く）

##### 【予約枠数と時間帯】

19時～21時の時間帯に1日1枠

##### 【運用方式】

- 予約サイトに「地元優先枠」を設定
- 希望する地元住民は各自予約サイトで申し込み。（先着順）
- 予約時に「住所」を入力してもらうことで地元利用かを確認
- 利用日の2日前までに予約が入らなかった住民優先枠は、「一般開放」し、誰でも予約可能

#### ② 予約1枠あたりの利用台数の変更(1枠2台)

- 期間中、予約1枠につき車両2台通行可能
- 車両同士は極力離れずに通行することとするが、道路の状況に応じた安全な車間距離を確保する。
- 2台通行の場合、運転者間で円滑な意思疎通が図れるよう、1枠の利用は1団体（実際に予約した団体）のみ
  - ・ガイド事業者であれば1事業者のみ。  
※顧客は複数グループでも可能
  - ・地元住民であれば1家族とその親族のみ。
  - ・観光客であれば1団体のみ。
- 車両2台の場合、石原栄間線の通行はなるべく避ける。通行する場合は、安全に十分に注意する。

## 2) 設定期間・調査概要

	設定期間	
	住用町住民優先枠	1枠2台までの利用
令和6年ゴールデンウィーク	令和6年4/27～5/6のうち 5日間	令和6年4/27～5/6 10日間
令和6年夏休み	令和6年8/10～8/18のうち 6日間	令和6年8/10～8/18 9日間
令和6年年末年始	令和6年12/27～令和7年1/5の 10日間	令和6年12/27～令和7年1/5 10日間

### 調査項目

- 通行台数
- 未予約率
- 無断キャンセル件数
- 石原栄間線・スタル俣線利用台数

### 調査手法

- 車番認識システム
- 予約サイトの予約情報
- 自動撮影カメラ
- 車両カウンター

23

## 3) 調査結果 3)-1 住用町住民優先枠

利用状況：利用は少なかった。

利用率は最大40%  
(実証実験段階では最大  
71.4%)

	設定日数	利用日数	利用状況		有効利用率※	住用町住民の利用率
			住用町住民の利用	一般開放の利用		
令和6年ゴールデンウィーク	5	2	2	0	40.0%	40.0%
令和6年夏休み	6	1	0	1	16.7%	0.0%
令和6年年末年始	10	3	2	1	30.0%	20.0%
合計	21	6	4	2	28.6%	19.0%

※設定日数に対して、一般開放を含めて利用された住民優先枠数の割合。

(参考) 実証実験段階での利用状況

	設定日数	利用日数※1	利用率	利用人数※2
令和4年年末年始	14	10	71.4%	6
令和5年ゴールデンウィーク	10	3	30.0%	2
令和5年夏休み	9	5	55.6%	3
令和5年年末年始	13	1	7.7%	1
合計	46	19	41.3%	-

※1 住用町住民による利用のみ(一般開放を除く)  
 ※2 同一予約者は1人として集計した。

24

3) 調査結果 3)-1 住用町住民優先枠

# 住用町住民優先枠設定日の通常枠の予約状況

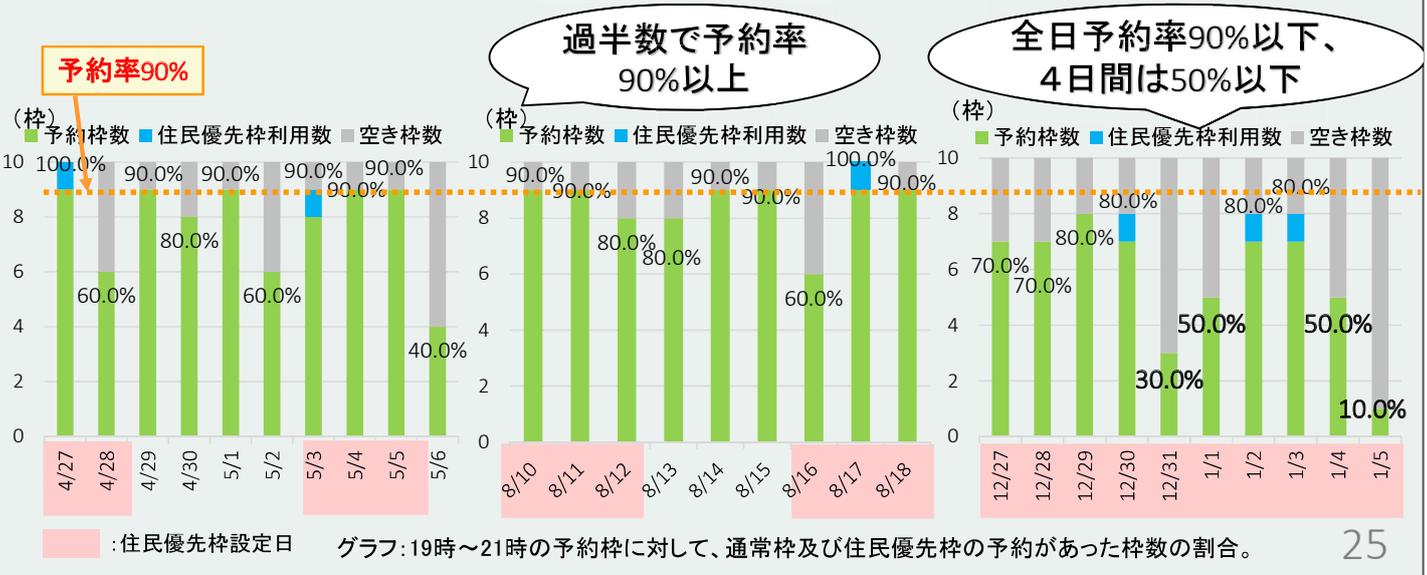
## ◇ゴールデンウィーク・夏休み

予約率90%以上の日が多く、利用がひっ迫している状況。

住民優先枠設定の有効性は高いと考えられるが、活用されない場合、他の利用者の不満につながる可能性がある。

## ◇年末年始

予約率が低く、利用はひっ迫していない。



3) 調査結果 3)-1 住用町住民優先枠

# 住民優先枠を除く住用町住民の利用状況

年間を通して一定程度の利用が確認された。

一部の住民には、住民優先枠以外の利用も浸透していると考えられる。

利用時期(2024年4月～2025年1月※1) 7月～9月の利用が多かった

	2024年										2025年	年間
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		
利用件数	4枠	4枠	4枠	9枠	10枠	9枠	6枠	6枠	0枠	0枠	0枠	52枠
住民優先枠 設定期間外	4枠	4枠	4枠	9枠	6枠	9枠	6枠	6枠	0枠	0枠	0枠	48枠
住民優先枠 設定期間	0枠	0枠	-	-	4枠	-	-	-	0枠	0枠	0枠	4枠

※1 2025年1月6日までの予約状況を対象に集計。

※2 予約サイトの予約情報に基づき集計。

設定期間での利用は4枠

## 複数回利用者 (住用町住民枠の利用履歴 -: 利用履歴なし ○: 利用履歴あり)

	A氏	B氏	C氏	D氏	E氏	F氏
利用回数	12	5	5	2	2	2
住民優先枠の 利用履歴	-	○	-	○	-	-

## 総括(住用町住民優先枠)

### 現在の利用状況

- 住民優先枠の利用率は少なかった。
- 年末年始は予約がひっ迫している状況ではなかったが、ゴールデンウィークや夏休みは予約がひっ迫しており、住民優先枠の空き枠が他の利用者の不満につながる可能性がある。
- 設定期間以外に、住用町住民による利用は一定数あった。

### 対応の方向性

- 住民優先枠の有効活用や運用方法の改善に向けて、検討する。

27

## 3) 調査結果 3)-2 1枠2台での利用

利用状況: 利用はあまり多くなく、利用者の属性も限定的(一部のガイドによる利用がほとんど)だった。

	利用件数(件)			対象期間(日)	利用日数※2
	総計	ガイド	一般利用		
令和6年ゴールデンウィーク	3	3	0	10	3(30.0%)
令和6年夏休み	5	4	1	9	4(44.4%)
令和6年年末年始	0	0	0	0	0(0.0%)
合計	8	7※1	1	19	7(36.8%)

※1 1つの事業者による利用

※2 利用された日数の割合=利用日数/対象期間

※3 利用された日数の割合=利用日数/実証実験期間

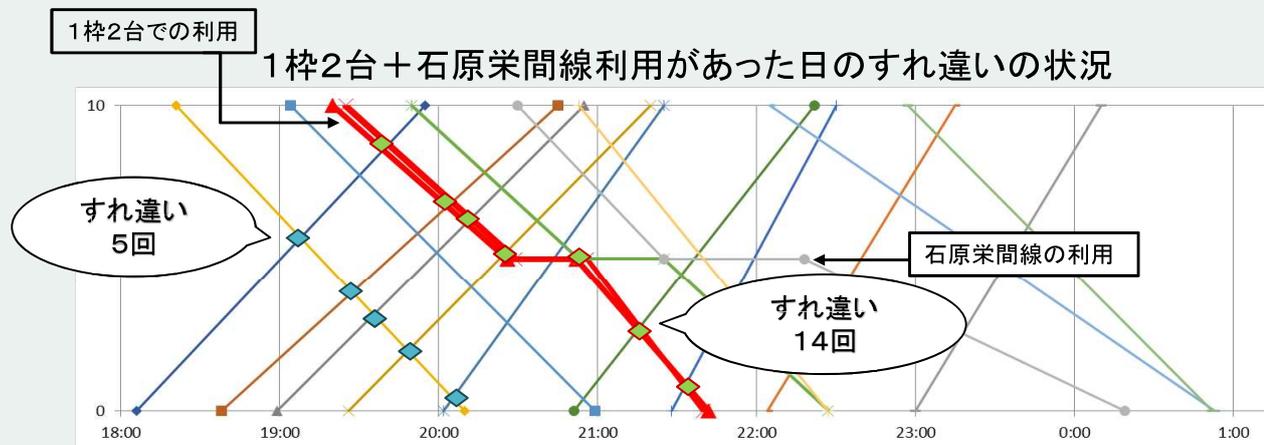
(参考) 実証実験段階での利用状況

	利用件数			実証実験期間	利用日数※3
	総計	ガイド	一般利用		
R4年年末年始	3	3	0	14	3(21.4%)
R5年ゴールデンウィーク	11	9	2	10	7(70.0%)
R5年夏休み	14	7	7	11	9(81.8%)
R5年年末年始	2	2	0	13	1(7.7%)
合計	30	21	9	48	27(41.7%)

28

# 1枠2台での利用に関連したすれ違いの状況

「1枠2台での利用+石原栄間線利用」の影響で最大14台のすれ違いが見られた。  
(通常のすれ違い台数:5~6台)



利用者の感想(利用者アンケートより)

- ・想像していたほど動物には遭遇できなかったのは、2台だと騒がしいからだと思った。
- ・お互い配慮しながら通行していたので、心配なかった。
- ・やや混雑していたが、声を掛け合って道を譲り合うことができた。

➤ すれ違いが増えると、観察状況や満足度に影響が生じる懸念がある。

# ルールに則らない1枠2台での利用

- ・対象期間外での1枠2台利用や、未予約での1枠2台利用など、ルールに則らない1枠2台利用が一定数見られた。
- ・2台が途中から離れて走行するケースも見られた。

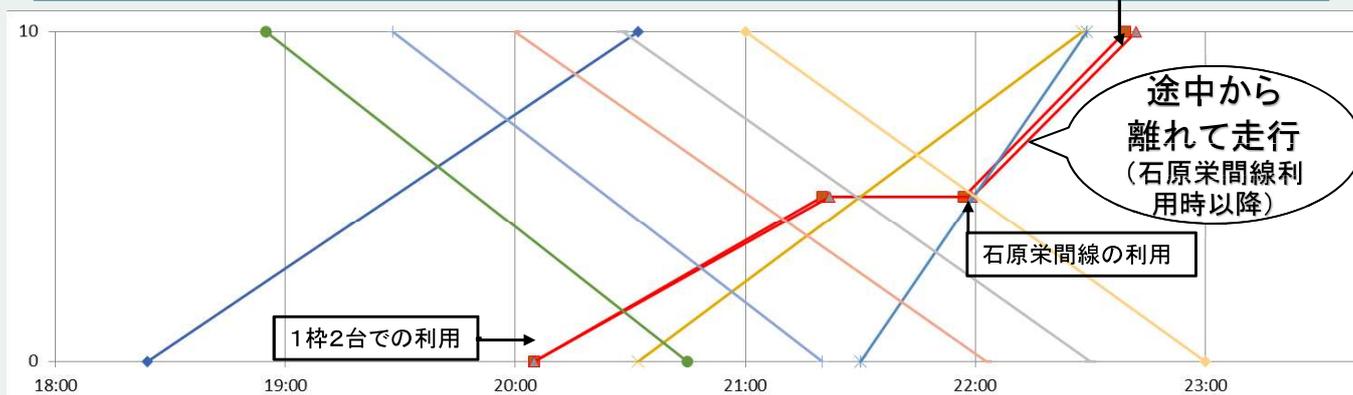
対象期間外での1枠2台での利用

- ・7月に1件(ガイド事業者)
- ・9月に2件(奄美ナンバー)
- ・10月に2件(ガイド事業者)

対象期間中のルール違反での利用

- ・令和6年年末年始の対象期間中、未予約での2台利用が2件確認された。

出口で3分の時間差  
(霧が原因。無線で連絡を試みたが、連絡が取れなかった。)



1枠2台での利用において、途中から2台が離れてしまった際の状況

## 総括(1枠2台での利用)

### 現在の利用状況

- ・1枠2台での利用は限定的。
- ・ルール不遵守の利用が複数件確認されている。(途中から離れて走行、期間外での1枠2台での利用)

### 対応の方向性

- ・適切な期間にルールを守って利用してもらうよう、引き続き周知及びモニタリングが必要。
- ・石原栄間線や1枠2台での利用は、トラブルの発生について引き続き注視していく。

ありがとうございました。

## 住用町住民優先枠と1枠2台利用に関する利用ルールについて 令和6年度の運用状況を踏まえた令和7年度の方針

### (1) 住用町住民優先枠

#### 令和6年度のルール(令和6年4月～)

「地元住民の利用機会を確保するため、住用町の住民を対象として、利用ピーク期等に住民優先枠を設定する。」

##### 【内容】

- 対象：住用町住民（ただしガイド事業者を除く）
- 設定期間：ゴールデンウィーク、夏休み、年末年始  
※期間の日数は過去の利用状況等から適宜判断する。
- 設定枠数：1日1枠
- 時間帯：19時～21時
- 一般開放：利用されない枠の活用のため一般開放を行う。  
※一般解放のタイミングは、利用日の2日前とする。



#### 令和6年度の運用状況と対応の方向性

##### ◇運用状況

- ・利用率は一般開放も含めて少なかった。
- ・設定期間以外で住用町住民の利用が一定数あった。
- ・年末年始は予約枠に空きがあり、利用がひっ迫している状況ではなかった。

##### ◇対応の方向性

- ・住民優先枠の有効活用や運用方法の改善に向けて、検討する。



#### 令和7年度の方針

- 設定期間は令和6年度と同様とする。
- 令和6年度は利用率が低かったことから、利用における課題を把握し、住民優先枠の有効活用や運用方法の改善に向けて検討する。

## (2) 1 枠2台までの利用に関するルール 令和6年度のルール(令和6年4月～)

「利用ピーク期の混雑を緩和するため、また家族や親戚等での利用に対応するため、利用ピーク期等に予約 1 枠の利用台数を 2 台までとする。」

### 【内容】

- 対象：すべての利用者
  - 設定期間：ゴールデンウィーク、夏休み、年末年始
- 注意事項：
- 車両同士は極力離れずに通行することとするが、道路の状況に応じた安全な車間距離を確保する。
  - 運転者間で円滑な意思疎通が図れるよう、1 枠の利用は 1 団体（実際に予約した団体）のみ可能。
    - ・ガイド事業者であれば 1 事業者のみ。※顧客は複数グループでも可能
    - ・地元住民であれば 1 家族とその親族のみ。
    - ・観光客のみであれば 1 団体のみ。
  - 車両 2 台の場合、石原栄間線の通行はなるべく避ける。通行する場合は、安全に十分に注意する。



## 令和6年度の運用状況と対応の方向性

### ◇運用状況

- ・利用数、利用者の属性は限定的だった。
- ・ルール不遵守の利用が一定数確認された。

### ◇対応の方向性

- ・設定期間やルールを守り適切に利用してもらうよう、引き続き周知及びモニタリングを行う。
- ・石原栄間線の利用も含め、トラブルの発生がないか引き続き注視する。



## 令和7年度の方針

- 設定期間は、令和 6 年度と同様とする。
- ルールを守り適切に利用されるよう、設定期間には事前に周知を行うとともに、立会い調査等のモニタリングを継続する。
- 設定期間外も含めた 1 年間の利用状況やトラブルの発生等についてのモニタリングも継続し、令和 7 年度の連絡会議において報告する。

## 三太郎線周辺以外の路線でのナイトツアー利用状況について

## 1. 奄美大島のナイトツアーの現状と課題の概要

ナイトツアーを行うエコツアーガイド4名への聞き取りにより、奄美大島のナイトツアーの現状と課題を把握した。以下に概要を示す。

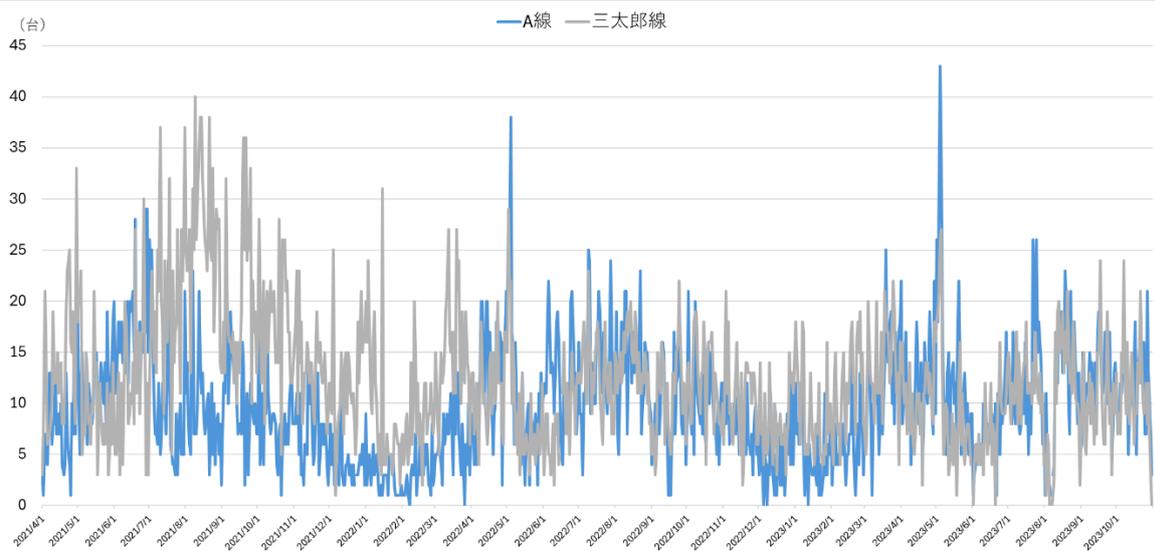
## 1-1. ナイトツアーフィールド一覧

地図を当日投影します

## 1-2. 各路線の状況（エコツアーガイドへの聞き取り結果）

## A 線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名瀬から近く利用がしやすい。</li> <li>・観察できる生物種が多い。</li> <li>・ガイド利用のほか一般の利用者も多い（現在は約6割が一般の利用） <u>特に夏休み等には一般の利用者が各段に増加する。</u></li> <li>・電気自動車（グリーンスローモビリティ）での利用がある。</li> <li>・ハブ捕り等の目的の地元利用者は少ない。</li> </ul> <p>※2024年5月末より、がけ崩れにより一部通行止め</p>
利用上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、<u>三太郎線の利用ルールで定められているような内容に沿った利用は行われていない。</u>（走行速度、すれ違い時マナー等）</li> <li>・すれ違い台数は5組程度。がけ崩れ（2024年5月末に発生）の影響でUターンする車が増加している。</li> <li>・降雨時は、ロードキルを多く見かける。</li> <li>・ガイド事業者と一般の利用者の間でのトラブルも発生している。</li> </ul>
利用するガイドからの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時期によっては利用者が三太郎線以上に多いという状況であれば、<u>三太郎線周辺における利用ルールと同様のルールを策定するのが良い。</u></li> <li>・<u>すれ違いルールや走行速度については優先的に適用し、予約制はその次の段階で検討すべき。</u></li> <li>・予約制を含め、三太郎線と同様のルールの展開を考えた方が良い。しかし、<u>A線を予約制にすると、他の場所での利用が増えることが懸念される。</u></li> <li>・<u>Uターン禁止のルールは適用を避けてほしい。（グリスロが使用できなくなるため。）</u></li> <li>・<u>利用ルールの看板を設置してほしい。</u></li> </ul>



(参考) A線及び三太郎線の夜間の日別利用台数(2021年4月～2023年10月)

### B線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美の夜行性動物全般が見られる。</li> <li>・E線は、道が整備されており急坂なので、スピードが出やすい。クロウサギの出現頻度も高く、ロードキルに注意が必要。</li> <li>・利用者の多くはガイド事業者。</li> <li>・ハブ捕り等での地元の利用もあると思われる。</li> </ul>
利用上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>最近1, 2年で利用者が増えた。多い時で3組ほどとすれ違う。</u></li> </ul>
利用するガイドからの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネルの開通により名瀬方面からの利便性が良くなった。それに伴い利用者が増加した。</li> </ul>

### C線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前はあまり見られなかったが、近年クロウサギが見られるようになった。</li> <li>・名瀬から近いため手軽に利用できる。</li> <li>・道幅は狭い。</li> <li>・利用者は少なく、地元車とレンタカーが多い。</li> <li>・すれ違い台数は3組程度</li> </ul>
利用上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>今後の利用者増加が懸念される。生き物の数が回復傾向にあるが、利用が増えると影響が及ぶ可能性がある。</u></li> </ul>
利用するガイドからの意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>看板を設置して、金作原と一体的に周知を行ってほしい。</u></li> </ul>

### D線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電線に止まっている野鳥類等が見られる。</li> <li>・利用者はガイドが多い。</li> <li>・利用者は少なく、基本的に集落住民と思われる。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## E 線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道幅が広い。</li> <li>・ナイトツアー以外の利用も多く、走行時に注意が必要。</li> <li>・ガイド事業者の利用は少ない。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## F 線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロウサギの出現頻度は低い。</li> <li>・近隣に事務所を持つガイド事業者が稀に利用している。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## G 線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に自然環境の状況が良い。</li> <li>・昆虫が多く、昆虫の撮影目的と思われる利用者を見かけることが多い。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## H 線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の利用者を見かけることはない。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## I 線

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつては利用が比較的多かったが、今はあまり利用者を見かけない。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## 地点 J 付近

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の利用者を見かけることはない。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## 地点 K 付近

フィールドの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の利用者を見かけることはない。</li> </ul>
利用上の課題	現在のところは特に無し
利用するガイドからの意見	意見なし

## 1-3. 今後の奄美大島全体のナイトツアーに関する意見

- 三太郎線と A 線以外の、一般の（ナイトツアー目的以外の）利用者が少ない路線では、「ナイトツアー利用は時速 10km 以下で走行」などの共通ルールを設けるのが良いと思う。
- 三太郎線のルールを全島展開する場合でも、予約制を他路線まで広げると、ガイド事業者にとって調整の手間が増え、不具合が生じることも考慮してほしい。
- 一般の利用者で、走行速度が速い車が多い点が課題と感じる。注意喚起の看板を増やすことで、ルールを知らずに利用している人を多少減らすことが出来ると思う。
- 特にロードキルの発生件数が多い地点だけでも看板による注意喚起があると良い。（例えば、網野子峠付近のカーブ等）
- 利用ルールを記載したステッカーを作成し、レンタカー業者に張ってもらうよう依頼すればよいと思う。内容は分かりやすいよう最低限のルールのみで良いと思う。

## 2. 今後の方向性

- ・奄美大島全体でのナイトツアー利用の無秩序な広がりを防ぐため、三太郎線周辺以外の路線についても何らかのルールを設ける必要性が高まっていると考えられる。
- ・ルールの内容については、三太郎線周辺の夜間利用ルールをベースにすることが考えられる。ただし、各路線によって利用の仕方が異なることや運用面の現実性を考慮して「事前予約制」や「一方通行」のルールについては現時点では適用せず、今後の利用状況をふまえて適用可否を判断すべきと考えられる。
- ・A線については、現状でも利用者間のトラブルが発生している可能性があることや、関係者からルール設定の必要性が認識されていることから、優先的に対策を検討する必要があると考えられる。
- ・B線やC線など、今後の利用増加やそれに伴う自然環境への影響が懸念される路線については、予防的な対策として、車両台数のモニタリングや看板の設置等を検討する必要があると考えられる。
- ・上記を含め、今後の対策や方針を検討するために、全島のナイトツアーに関する協議の場を設ける必要があると考えられる。

路線別の対応案

路線・地点	課題の概要	対策の必要性 ※	対策内容案
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用台数がすでに多い。</li> <li>・ガイド利用のほか、一般の利用者の利用も多く、特に夏休み等の長期休暇の際は、一般の利用者が増える。</li> <li>・自然環境への配慮がなされていない利用が見られる。</li> <li>・他の利用者への配慮に欠く利用など、トラブルの発生につながる利用がある。</li> </ul>	高	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用台数のモニタリングを継続</li> <li>●利用ピーク期に状況調査を実施</li> <li>●周知看板の設置</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年利用者が増加傾向</li> </ul>	中	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規に利用台数のモニタリングを実施</li> <li>●周知看板の設置</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野生動物の数は回復傾向にあるが、市街地からアクセスしやすいため、利用者の増加により自然環境への影響が懸念される。</li> </ul>		
D~K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用上の課題は、現時点では特にない</li> </ul>	低	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ガイド事業者に状況を確認する等、今後の利用状況の変化に注視する。</li> </ul>

※ 今後、より多くのエコツアーガイドへの意見聴取や、全島のナイトツアーに関する協議を踏まえ、対策が必要な路線や対策の必要性については更なる検討を行う。

## 令和 6 年度 奄美大島三太郎線周辺における夜間利用適正化連絡会議の検討事項等に関する意見照会の結果と対応

## 意見照会事項 1 住用町住民優先枠と 1 枠 2 台までの利用について

## 1. 住用町住民優先枠

## ① 住用町住民優先枠の運用について、課題に感じている点や改善

回答者	意見	事務局の考え
奄美群島エコ ツアーガイド 連絡協議会	現在の運用方法で利用率が低いようなので不要ではないか 今後も設けるのであれば改善が必要	三太郎線と特に関わりが深い住用地区住民が、予約が取りにくくなる繁忙期においても利用の機会を確保できるよう、実証実験での検討を経て、令和 6 年 4 月より利用ピーク期等に住用町住民優先枠を設定することとしました。 今年度の住用町住民優先枠の利用率が低かった点については課題として認識しております。しかし、住民優先枠を設定した背景を踏まえると住用町住民優先枠が不要であると、現時点でその必要性がなくなったと判断するのは時期尚早であると考えております。そのため、住用町住民に活用していただけるよう、住民優先枠の周知を強化するとともに、今後、住民にとって有効な活用ができるような運用方法について検討します。
一般社団法人 奄美群島観光 物産協会	大きな課題はないと思います。	住民優先枠のより良い運用について、引き続き検討します。

## ② 住用町住民優先枠の有効活用のアイデアや運用方法（一般開放の方法など）について

回答者	意見	事務局の考え
奄美群島エコツアーガイド連絡協議会	ナイトツアー業者がボランティアツアーを行う これまでも行っているが、回数を増やす ボランティアツアー開催の周知（知らない人もいるかも） チケットなど配布し無料でいつでも利用できるような体制づくり	地元住民向けの観察会等を継続的に実施できるよう、周知や運営への協力を含め、ガイド事業者との連携を図ってまいります。その一環として、住民優先枠を活用していくことを検討します。
一般社団法人奄美群島観光物産協会	奄美市だより(広報誌)への住民優先枠の情報掲載や奄美市公式 LINE での一般開放時の奄美市公式 LINE での告知などの取組を充実してみたいはかがでしょうか。	広報誌及び奄美市公式 LINE での情報掲載は実施しており、引き続き継続していきたいと考えております。一般開放の告知につきましても引き続き検討します。

## 2. 1 枠 2 台までの利用

## ① 1 枠 2 台までの利用について、課題に感じている点や改善点

回答者	意見	事務局の考え
奄美群島エコツアーガイド連絡協議会	問題なく運用できているが、年に数回しかないためメリットは少ない 運用すべきではないという意見もあり 繁忙期のみではなく通常運用してはどうか。団体の場合、繁忙期以外が多いため。 ナイトツアーの体験イベントでも効率的に催行できる運用する場合、ガイド事業者に限るべき	1 枠 2 台までの利用については、主に繁忙期に予約状況のひっ迫を緩和することを目的として利用ルールに追加されています。しかし、1 枠 2 台までの利用を通年実施し、より多くの団体客を受け入れることは、利用台数が過剰になる可能性や、未予約利用との判別が困難になるおそれがあるため慎重に判断する必要があります。現段階では難しいと考えています。一方で、通年実施することにより、環境教育イベントでの活用などメリットも考えられるため、今後もモニタリングを継続しながら運用方法を柔軟に見直していく予定です。 また、これまでガイド事業者以外の一般利用者による 1 枠 2 台までの利用において、大きなトラブルは確認されておりません。こちらも引き続きモニタリングを実施しながら、重大な問題が確認

回答者	意見	事務局の考え
		された場合は、必要な改善策を検討いたします。
一般社団法人奄美群島観光物産協会	予約時に2台利用するかどうか把握する必要があると感じます。	1枠2台での利用の予定について予約時に設問を設けて把握に努めていますが、予約時には未定の利用者も多い状況であるため、モニタリングにより把握しているところです。引き続き利用者には予約時もしくは利用台数が分かった後に登録していただくよう周知するとともに、モニタリングによる把握も継続します。
一般社団法人奄美群島観光物産協会	ピーク時など、多くの事業者が2台利用することが想定されますが、たとえば全ての事業者が2台利用した場合、2倍の車両が通行することになります。1枠2台までの利用による影響について、きちんとモニタリングする必要があると感じます。	これまで、1日に多数の1枠2台利用が行われる状況は確認できていませんが、引き続きモニタリングを行い、混雑状況等を注視していきます。影響が生じていることが明らかになった場合は、対応を検討します。

## ② 1枠2台で石原栄間線を利用することに関するご意見や、これまでのトラブル等

回答者	意見	事務局の考え
奄美群島エコツアーガイド連絡協議会	問題なく運用できている 道が狭く基本やめるべき 石原栄間線利用の車との時間差が生じ、本線利用の車両との間隔が狭くなるのでやめるべき（1枠2台に限らず） そもそも石原栄間線の利用もやめるべき。三太郎線本線で十分生き物がみられる。	これまで、石原栄間線での2台利用は主に一部のガイド事業者に限定されており、石原栄間線内での大きなトラブル等は確認されておりません。しかし、ご指摘の通り、石原栄間線は離合が難しい路線であり、またその利用によって三太郎線での30分おきの車両間隔が乱れ、観察状況に支障が生じるのではといった意見も寄せられています。今後もモニタリングを継続し、重大な問題が生じた場合には、適切な対応を検討します。
一般社団法人奄美群島観光物産協会	業務で利用しておらず、トラブル等把握しておりません。また、会員事業者や旅行者等からのトラブル等の報告や情報提供もありません。	

## 意見照会事項 2 三太郎線周辺以外の路線でのナイトツアーの利用状況について

奄美大島全体でのナイトツアー利用の無秩序な広がりを防ぐために、必要と考える対策やご意見

回答者	意見	事務局の考え
奄美群島エコツアーガイド連絡協議会	<p>全島的に広がっているので、規制はすでに無理</p> <p>公の道を通行規制はできないので、</p> <p>ルールの周知徹底が今よりもさらに必要、奄美全体で保全活動、意識の徹底</p> <p>大和村に新設される保護観察施設への観光客の誘導</p> <p>三太郎線以外にもルールを適用、幹線道路以外に</p>	<p>引き続き、三太郎線周辺以外の路線についても現況の把握に努めます。</p>
一般社団法人奄美群島観光物産協会	<p>湯湾岳周辺、和瀬トンネル（旧道）、嘉徳など三太郎線周辺以外においてナイトツアーを実施している事業者（住民）もいると聞きます。奄美大島全域においてナイトツアーが実施されている場所、利用者などの利用情報を調査する必要があると感じます。また、将来的には、ナイトツアーなどの動物観察を目的とした夜間利用については、奄美大島全域のルールを策定する必要があると感じます。</p>	<p>三太郎線でのルールの運用を踏まえた夜間利用ルールの全島への展開は今後の課題と認識しており、今後、いただいたご意見を参考に、全島のナイトツアーのあり方を検討します。</p>

## 意見照会事項3 モニタリング指標（地域社会）における評価

各団体が住用町において、地域に対する自然体験・学習や保全活動として実施されていること

回答者	意見	事務局の考え
奄美群島エコツアーガイド連絡協議会	行政や学校からの依頼で、ナイトツアーや実施経験あり 夜間自然学習、外来種駆除に取り組んでいる ナイトツアー体験会を開催している <b>【参考】</b> 新聞記事「ナイトツアーに無料招待 観察会で自然の魅力体感 奄美市住用町」(南海日日新聞 2024年6月12日)	ご回答いただき、ありがとうございます。モニタリング指標の評価に反映いたします。 引き続きこのような活動の実施につきまして、ご協力いただけると幸いです。
一般社団法人奄美群島観光物産協会	実施していません。	

## 三太郎線シンポジウム

「奄美のナイトツアーの可能性 ～自然遺産を活かした世界水準の観光地づくり～」  
結果概要

■開催日時：令和7年2月24日（月・祝） 14:30～17:00  
参加人数：59人

## ■結果概要

## 【講演】

## 講演① 夜の奄美の森の魅力について

平城達哉氏（奄美市立奄美博物館学芸員）

- ・三太郎線周辺の2年間の夜間ルートセンサス調査の結果、19種の動物が確認されている。そのうちアマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ、クマネズミ、トラフズク、ハブ、アマミハナサキガエルのユニークな生態等の特徴について説明いただいた。
- ・今後の三太郎線の利用について、自然を守りながら利用するのが前提であり、現状を把握することも大事であることから、ロードキルの状況をこれまで実施しているアンケート項目に追加してデータとして把握すること等をご提案いただいた。

## 講演② 地域が主役の協働による自然観光のあり方について

岩浅有記氏（奄美市政策アドバイザー、大正大学地域構想研究所准教授）

- ・「自然」「アクティビティ」「文化」の3要素のうち2つ以上が主目的である旅行を「アドベンチャーツーリズム」という。アドベンチャーツーリズムは、利用者の体験の充実や、地域の自然・文化の保全、地域コミュニティの活性化に寄与する持続可能な観光形態であり、奄美大島に適したツーリズムのあり方としてご紹介された。
- ・奄美大島でアドベンチャーツーリズムに取り組むにあたり、地域が主役となって検討を進めることの重要性について話した。また、滞在時間の延長や地域にお金を落とす仕組み、再訪率を高める方法について提案された。



三太郎線シンポジウムの開催チラシ

**【パネルディスカッション】**

テーマ：

奄美大島におけるナイトツアーを活かした地域づくり

内容：

講演者、ガイド事業者、地域住民、行政職員の計6名をパネリストとし、会場からの意見募集も行いつつ、パネルディスカッション形式で意見交換を実施した。パネルディスカッションでは、ガイド事業者と地域住民の相互連携を強化していきたいなど、前向きな姿勢で活発な意見交換が行われた。主な意見は以下のとおりである。

- ・住用町は、昼間はマングローブ林でのカヌー、夜間はナイトツアーが体験でき、奄美大島の中でも観光地としてのポテンシャルが高い地域である。昼夜ともに観光客が住用町で活動し、滞在時間を延ばすことができるように、食事を提供する場所や既存施設（奄美大島世界遺産センターや三太郎の里）の有効活用ができるとうい。
- ・地域の魅力探し（＝宝探し）を行い、集落巡りの観光メニューを作成することで、住用町の伝統的な文化や暮らし、自然を民泊を通じて発信している。現在は情報発信の拠点がなく課題と感じており、意見交換の場が必要と感じている。
- ・ガイド事業者としても、集落歩き等のツアーに参加し、集落の伝統的な行事や活動が行われていた場所等を学び、地域と連携してツアーを考えていけたら良いと思う。
- ・ガイド事業者と地域が連携することで、自然と文化の魅力を統合し、住用町の環境文化としての魅力を発信していけると良いと思う。



講演の様子



パネルディスカッションの様子

## 奄美大島三太郎周辺における夜間利用適正化連絡会議 構成機関案

住民	西仲間町内会 東仲間町内会 住用町囑託委員会
民間等	奄美大島商工会議所 あまみ商工会 一般社団法人奄美群島観光物産協会 一般社団法人あまみ大島観光物産連盟 奄美大島観光協会 一般社団法人奄美自動車連合会 世界自然遺産推進共同体 奄美大島エコツアーガイド連絡協議会（事務局 奄美市紬観光課） 奄美大島エコツーリズム推進協議会（事務局 奄美市紬観光課） 株式会社マングローブ公社 NPO 法人すみようヤムラランド <a href="#">NPO 法人奄美島おこしプロジェクト</a> 特定非営利活動法人 奄美野鳥の会 奄美哺乳類研究会 <a href="#">環境ネットワーク奄美自然と文化を守る奄美会議</a> 奄美の自然を考える会 奄美自然環境研究会
国	環境省奄美群島国立公園管理事務所★
県	環境林務部自然保護課★ 大島支庁保健福祉環境部衛生・環境室 奄美警察署交通課
市	奄美市 <a href="#">プロジェクト推進課</a> <a href="#">世界自然遺産課</a> ★ 奄美市土木課 奄美市紬観光課 奄美市住用総合支所市民福祉課★ 奄美市住用総合支所産業建設課★
広域事務組合	奄美群島広域事務組合奄美振興課

★：[主催者事務局](#)